

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-196665

(P2009-196665A)

(43) 公開日 平成21年9月3日(2009.9.3)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 47/40 (2006.01)	B 6 5 D 47/40 A	3 E 0 8 4
B 6 5 D 41/26 (2006.01)	B 6 5 D 41/26	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2008-39809 (P2008-39809)	(71) 出願人	000006769
(22) 出願日	平成20年2月21日 (2008.2.21)		ライオン株式会社
			東京都墨田区本所 1 丁目 3 番 7 号
		(74) 代理人	100112335
			弁理士 藤本 英介
		(74) 代理人	100101144
			弁理士 神田 正義
		(74) 代理人	100101694
			弁理士 宮尾 明茂
		(72) 発明者	田代 歳広
			東京都墨田区本所一丁目 3 番 7 号 ライ
			オン株式会社内
		(72) 発明者	加藤 啓育
			東京都墨田区本所一丁目 3 番 7 号 ライ
			オン株式会社内

最終頁に続く

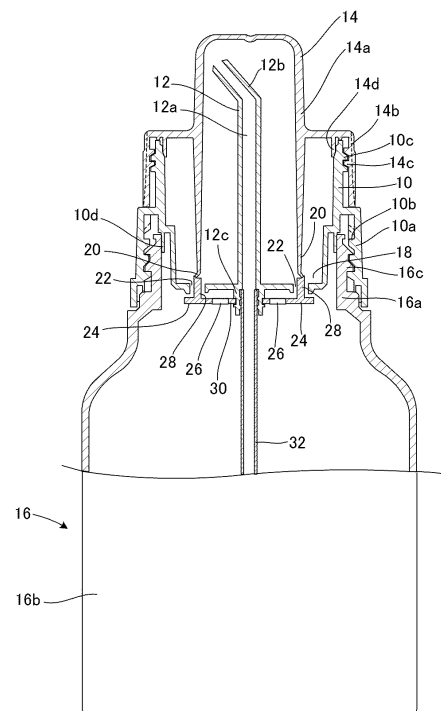
(54) 【発明の名称】 容器用蓋体

(57) 【要約】

【課題】出しすぎた液状内容物を本体容器内に簡単に戻せると共に、繰り返し使用しても注出筒に曲がりや破損等が生じ無い、メンテナンス性及び経済性の高い容器用蓋体を提供する。

【解決手段】本体容器 16 をスクイズして注出筒 12 から上蓋 14 の膨出部 14 a 内に一定量の液状内容物を注ぎ出す容器用蓋体において、前記中蓋 10 には、その液溜凹所 18 内の底部の一部であって、前記注出筒 12 の立ち上がり位置とは別位置に、中蓋 10 の本体容器 16 内部側と外部側とを連通する連通孔 22 を形成し、弁体 24 によって連通孔 22 を開状態にしたときに前記液溜凹所 18 内に溜まった液状内容物を本体容器 16 内に戻すものであり、上蓋 14 の膨出部 14 a の中蓋 10 への取付け側端には、上蓋 14 を中蓋 10 に取付けて覆った状態としたときに、前記弁体 24 を開状態に作動させる突出部 20 を設けている。

【選択図】図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液状内容物が充填された本体容器の上部の口元部に取付けられて、下方に凹ませた液溜凹所が形成された中蓋と、該中蓋の液溜凹所の底部から立ち上がって上方に延設され内部に本体容器内部をその外部に連通する中空通路を有する管状のものであって前記本体容器をスクイズした際に液状内容物を中空通路経由によって先端部から吐出する注出筒と、一端が開口した容器状の膨出部が形成され該膨出部の開口側端を前記中蓋側に向けかつ前記注出筒を内装した状態で前記中蓋を上側から覆って前記中蓋に取付ける上蓋とを有してなる容器用蓋体であって、

液状内容物の注出は、上蓋を中蓋から取り外して前記膨出部の開口側端を上に向けた状態で本体容器をスクイズして前記注出筒から上蓋の膨出部に一定量の液状内容物を注ぎ出し、その上蓋内に注ぎ出された液状内容物を使用に供するようにした容器用蓋体において、

前記中蓋の液溜凹所内の底部の一部であって、前記注出筒の立ち上がり位置とは別位置に、中蓋の本体容器内部側と外部側とを連通する連通孔を形成すると共に、この連通孔を開閉して、該連通孔を開状態にしたときに前記液溜凹所内に溜まった液状内容物を本体容器内に戻すための弁体を設け、

上蓋の中蓋への取付け側端には、上蓋を中蓋に取付けて覆った状態としたときに、前記弁体を開状態に作動させる突出部を設けたことを特徴と容器用蓋体。

【請求項 2】

弁体は弾性体の付勢によって連通孔に下方から開閉可能に密着されており、

前記上蓋の膨出部は、スクイズ時に注出筒から吐出された液状内容物を受けて計量可能に形成され、

前記上蓋の突出部は、前記膨出部の周縁が環状に突出し、上蓋を中蓋に取付けたときに該中蓋の液溜凹所内の底部にまで至り前記弁体を押圧して開状態に作動可能に形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の容器用蓋体。

【請求項 3】

注出筒は、中蓋底部の軸中央部から立ち上がって上方に延びて設けられており、中蓋底部には、その注出筒を取り囲むように注出筒側面と中蓋内壁面との間の位置に本体容器内部側と外部とを連通する連通孔が形成されており、

弁体は中蓋の底部下面の本体容器内部側に前記連通孔を密閉可能に上側に向けて弾性体によって付勢されて設けられていると共に、弁体には前記連通孔を通して底部上面側に延在し前記突出部が当接するための押圧部が形成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の容器用蓋体。

【請求項 4】

中蓋には、底部下方には前記注出筒内の中空通路に連通する筒状部が本体容器内部の底部方向に突出形成されており、弁体はその筒状部基部の外周に設けた弾性体によって、前記連通孔を密閉可能に上側に向けて弾発されていることを特徴とする請求項 3 に記載の容器用蓋体。

【請求項 5】

弁体が環状に形成され、筒状部の外周部に該弁体の同心円状に環状取付け部が設けられ、弁体及び環状取付け部間に弁体を上方に向けて付勢する弾性体が設けられていることを特徴とする請求項 3 または 4 に記載の容器用蓋体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、液体洗剤や柔軟剤等の液状内容物を本体容器内に収容した容器製品において、液状内容物が充填された本体容器の上部の口元部に中蓋を取付け、該中蓋の液溜凹所の底部から立ち上がって上方に延設され内部に本体容器内部をその外部に連通する中空通路を有する管状の注出筒と、液状内容物計量用の容器状の膨出部が形成され、前記中蓋を上

10

20

30

40

50

側から覆って前記中蓋に取付ける上蓋とを有してなる容器用蓋体に関する。

【背景技術】

【0002】

液状内容物を収容した容器製品には、洗濯槽内の水に対して、衣料用の液体洗剤、柔軟剤等、予め設定された一定の量を使用することが必要なものがある。

【0003】

この種の液状内容物に使用される容器の蓋部は、液状内容物が充填された本体容器に取付けられた、注出筒を備えた中蓋と、この中蓋を覆うように取付けられる計量機能を有する上蓋とからなっている。

【0004】

液状内容物の注出は、まず上蓋を取り外し、本体容器を傾けながら注出筒から上蓋内に一定量の内容物を注ぎ出し、上蓋内に計量された液状内容物を洗濯槽内等の使用に供するようにしている。

【0005】

しかしながら、本体容器を傾けて上蓋内に注ぎ出す計量方式の容器製品では、満注時の操作で持っている本体容器を重たく感じることに加え、少量の計量において操作性が悪く、また、計量時に液垂れが発生する等の問題があった。

【0006】

これに対して、特公平4-7094号公報（特許文献1）では、容器口元の筒体にカップを取付け、筒体には管状で下端にフランジのある剛性のある筒状のノズルを貫通孔から突出させて上方に付勢して取付けており、カップ使用時には、上記フランジによって貫通孔とノズル周囲は閉鎖されている。そして、カップ計量後に前記筒体に該カップを螺着するとカップ内底がノズル先端に当たって、ノズルを押し下げて貫通孔とノズル周囲の隙間が開きこの隙間からカップに残液が容器内に帰還するようにしたものである。

【0007】

一方、少量の液状内容物を計量する技術として、容器を押圧して内圧を高めて、細い注出筒（注出ノズル）から液状内容物を抽出する構造が考えられるが、スクイズ操作によっては液状内容物を出しすぎた場合に容器に戻せないという課題があった。

【0008】

この場合に、注出筒には、上記の特許文献1のようにカップによって押し下げる剛性の高いノズルを使用できない。すなわち、仮に細くて剛性の低いノズル（注出筒）で特許文献1の液体計量キャップを形成すると、繰り返し使用によってノズルに曲がりや破損が生じて使用不能になることや、ノズル交換等の修理が必要になること等のため、実用的でなくコストも高くなってしまうという問題点を有している。

【特許文献1】特公平4-7094号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

本発明は、前記の問題点に鑑み、液状内容物の少量の計量がし易く、計量時の液垂れ等の生じることがなく、出しすぎた液状内容物を本体容器内に簡単に戻すことができると共に、繰り返し使用しても注出筒に曲がりや破損等が生じ無い、メンテナンス性及び経済性の高い容器用蓋体を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明は、液状内容物が充填された本体容器の上部の口元部に取付けられて、下方に凹ませた液溜凹所が形成された中蓋と、該中蓋の液溜凹所の底部から立ち上がって上方に延設され内部に本体容器内部をその外部に連通する中空通路を有する管状のものであって前記本体容器をスクイズした際に液状内容物を中空通路経由によって先端部から吐出する注出筒と、一端が開口した容器状の膨出部が形成され該膨出部の開口側端を前記中蓋側に向けかつ前記注出筒を内装した状態で前記中蓋を上側から覆って前記中蓋に取付ける上蓋と

10

20

30

40

50

を有してなる容器用蓋体であって、

液状内容物の注出は、上蓋を中蓋から取り外して前記膨出部の開口側端を上に向けた状態で本体容器をスクイズして前記注出筒から上蓋の膨出部に一定量の液状内容物を注ぎ出し、その上蓋内に注ぎ出された液状内容物を使用に供するようにした容器用蓋体において、

前記中蓋の液溜凹所内の底部の一部であって、前記注出筒の立ち上がり位置とは別位置に、中蓋の本体容器内部側と外部側とを連通する連通孔を形成すると共に、この連通孔を開閉して、該連通孔を開状態にしたときに前記液溜凹所内に溜まった液状内容物を本体容器内に戻すための弁体を設け、

上蓋の中蓋への取付け側端には、上蓋を中蓋に取付けて覆った状態としたときに、前記弁体を開状態に作動させる突出部を設けたことを特徴とする容器用蓋体である。

【 0 0 1 1 】

本発明においては、弁体は弾性体の付勢によって連通孔に下方から開閉可能に密着されており、

前記上蓋の膨出部は、スクイズ時に注出筒から吐出された液状内容物を受けて計量可能に形成され、

前記上蓋の突出部は、前記膨出部の周縁が環状に突出し、上蓋を中蓋に取付けたときに該中蓋の液溜凹所内の底部にまで至り前記弁体を押圧して開状態に作動可能に形成されていることが好適である。

【 0 0 1 2 】

本発明においては、注出筒は、中蓋底部の軸中央部から立ち上がって上方に延びて設けられており、中蓋底部には、その注出筒を取り囲むように注出筒側面と中蓋内壁面との間の位置に本体容器内部側と外部とを連通する連通孔が形成されており、

弁体は中蓋の底部下面の本体容器内部側に前記連通孔を密閉可能に上側に向けて弾性体によって付勢されて設けられていると共に、弁体には前記連通孔を通して底部上面側に延在し前記突出部が当接するための押圧部が形成されていることが好適である。

【 0 0 1 3 】

本発明においては、中蓋には、底部下方には前記注出筒内の中空通路に連通する筒状部が本体容器内部の底部方向に突出形成されており、弁体はその筒状部基部の外周に設けた弾性体によって、前記連通孔を密閉可能に上側に向けて弾発されていることが好適である。

【 0 0 1 4 】

本発明においては、弁体が環状に形成され、筒状部の外周部に該弁体の同心円状に環状取付け部が設けられ、弁体及び環状取付け部間に弁体を上方に向けて付勢する弾性体が設けられていることが好適である。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 5 】

本発明の請求項 1 ～ 5 記載の容器用蓋体によれば、前記中蓋の液溜凹所内の底部の一部であって、前記注出筒の立ち上がり位置とは別位置に、中蓋の本体容器内部側と外部側とを連通する連通孔を形成すると共に、この連通孔を開閉して、該連通孔を開状態にしたときに前記液溜凹所内に溜まった液状内容物を本体容器内に戻すための弁体を設け、上蓋の中蓋への取付け側端には、上蓋を中蓋に取付けて覆った状態としたときに、前記弁体を開状態に作動させる突出部を設けたので、液溜凹所内に溜まった残留液を、上蓋を中蓋に取付けることによって突出部によって弁体を作動させて連通孔を開状態にするという簡単な操作で、残留液を本体容器内に戻すことができる。

【 0 0 1 6 】

したがって、液状内容物の少量の計量がし易く、計量時の液垂れ等が生じることがなく、出しすぎた液状内容物を本体容器内に簡単に戻すことができる。

【 0 0 1 7 】

また、上蓋で中蓋を覆ったときに上蓋の突出部によって、注出筒の立ち上がり位置とは

10

20

30

40

50

別位置の弁体を開状態に作動させるので、注出筒を押圧すること必要がなく、注出筒を剛性が低い細径のものにしても確実に前記弁体を開状態に作動させることができる。

【 0 0 1 8 】

したがって、繰り返し使用しても注出筒に曲がりや破損等が生じ無い、メンテナンス性及び経済性が高い容器用蓋体を提供できる。

【 0 0 1 9 】

なお、本発明においては、弁体は弾性体の付勢によって連通孔に下方から開閉可能に密着されており、前記上蓋の膨出部は、スクイズ時に注出筒から吐出された液状内容物を受けて計量可能に形成され、前記上蓋の突出部は、前記膨出部の周縁が環状に突出し、上蓋を中蓋に取付けたときに該中蓋の液溜凹所内の底部にまで至り前記弁体を押圧して開状態に作動可能に形成することができる。

10

【 0 0 2 0 】

また、本発明においては、中蓋底部に、注出筒を取り囲むように注出筒側面と中蓋内壁面との間の位置に本体容器内部側と外部とを連通する連通孔を形成し、弁体の中蓋の底部下面の本体容器内部側に前記連通孔を密閉可能に上側に向けて弾性体によって付勢して設けると共に、弁体に前記連通孔を通して底部上面側に延在し前記突出部が当接するための押圧部を形成すれば、連通孔と弁体に押圧部と弾性体の構造で連通孔を開閉できるため、簡単に構成にできる。

20

【 0 0 2 1 】

また、中蓋には、底部下方には前記注出筒内の中空通路に連通する筒状部が本体容器内部の底部方向に突出形成されており、弁体はその筒状部基部の外周に設けた弾性体によって、前記連通孔を密閉可能に上側に向けて弾発することができる。

【 0 0 2 2 】

また、弁体が環状に形成され、筒状部の外周部に該弁体の同心円状に環状取付け部が設けられ、弁体及び環状取付け部間に弁体を上方に向けて付勢する弾性体が設けられている構造にできるので、簡単な構成で弁体を開閉する機構を形成できる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 3 】

以下、本発明の実施の形態を添付図面を参照して説明する。

30

【 0 0 2 4 】

図 1 ~ 図 4 は本発明の実施形態に係る容器用蓋体の説明図である。図 1 は本体容器とそれに設けた容器用蓋体の詳細断面図、図 2 (a)、(b) は、弁体、弾性体、および環状取付け部の構成説明図、作動図、図 3 は容器用蓋体の注出説明図、図 4 (a)、(b) は容器用蓋体の上蓋を中蓋に取付ける前、取付けた後の説明図である。

【 0 0 2 5 】

図 1 に示すように、実施形態に係る容器用蓋体は、中蓋 1 0 と、注出筒 1 2 と、上蓋 1 4 とを有しており、注出筒 1 2 の設けられた中蓋 1 0 が、本体容器 1 6 の口元部 1 6 a に取付けられて、上蓋 1 4 で着脱自在に覆われる構造になっている。

40

【 0 0 2 6 】

〔 本体容器 1 6 〕

本体容器 1 6 は、側壁部 1 6 b で囲まれた中空部内が液状内容物の収容部であって、上部肩部から上方に先細の口元部 1 6 a が、ポリエチレン (P E) やポリプロピレン (P P)、ポリエチレンテレフタレート (P E T)、或いはエチレンビニルアルコール (E V O H) とポリエチレン等との多層構造等で樹脂成形されたものであって、使用者が本体容器 1 6 の側壁部 1 6 b を掴んで一定以上の力を加えることによって側壁部 1 6 b が弾性的に凹み (内容積減少によって) 内圧の上昇から液状内容物を注出筒 1 2 から押し出して注出できる (スクイズできる) 弾性構造になっている。

つまり、本体容器側壁部 1 6 b は、不使用時等、側壁部 1 6 b に押圧力を加えないときまたは持つ程度の少しの力しか加えないときには弾性変形しないと共に、一定以上の力を

50

加えることによって容易に弾性変形可能に、材質、厚さや形状等の構造を適切に設定できる。また、本体容器 16 はその上方に口元部 16 a が先細に形成されており、口元部 16 a 外周に雄ネジ山 16 c が形成されている。本体容器口元部 16 a は、このように中蓋 10 が螺合して（螺合部 10 b）固定するので、側壁部 16 b と同材質または異なる材質のものを使用できる。

【0027】

〔中蓋 10〕

中蓋 10 は、液状内容物が充填された本体容器 16 の上部の口元部 16 a に取付けられて、口元部 16 a 内に嵌入する部分に下方に凹む液溜凹所 18 が形成されている。

【0028】

中蓋 10 は P E、P P 等、本体容器 16 より剛性を高くする等して形成できる。

【0029】

また、中蓋 10 は、下部が上部よりも縮径した概略円筒形状を呈し、その下端部が閉鎖されてその底部内に液溜凹所 18 になっている。そして、中蓋 10 の中央部から下部にかけて外周部に同心状に、本体容器 16 の口元部 16 a に被せたときに外側から袋状に覆う取付け用壁部 10 a が形成され、この取付け用壁部 10 a の内壁には雌ネジ山の形成された螺合部 10 b が設けられる。そして、前記中蓋 10 は、本体容器 16 の口元部 16 a に被せ、該口元部 16 a 外周の雄ネジ山 16 c に前記螺合部 10 b の雌ネジ山をねじ込み（螺合）させて、口元部 16 a に固定するようになっている。

【0030】

なお、中蓋 10 の先端部には外周面の先端部を取り囲むように上蓋 14 のネジ嵌合（螺合、螺着ともいう）用の雄ネジ山 10 c が径方向外側に向けて突出して形成されている。また、中蓋 10 において、取付け用壁部 10 a と液溜凹所 18 の間に位置して口元部 16 a の内側に嵌入する環状突起 10 d が形成される

【0031】

〔注出筒 12〕

また、注出筒 12 は、前記中蓋 10 の液溜凹所 18 の底部から立ち上がって上方に延設され本体容器 16 内部をその外部に連通する中空通路 12 a を有する管状のものであって前記本体容器 16 をスクイズした際に液状内容物を中空通路 12 a 経路によって先端部から吐出するものである。実施形態では、注出筒 12 は、中蓋 10 に一体成形で細径に中蓋 10 上端よりも上方に延び、その上端部 12 b で左右一側に斜めに曲げて形成している。中蓋 10 上端よりも上方に延びる長さは上蓋 14 を外した状態で計量時に邪魔にならない長さに形成されている。

【0032】

〔上蓋 14〕

上蓋 14 は、一端が開口した容器状の膨出部 14 a が形成され該膨出部 14 a の開口側端の筒状周縁部を構成する突出部 20 を前記中蓋 10 側に向けかつ前記注出筒 12 を内装した状態で前記中蓋 10 を上側から覆って前記中蓋 10 に取付けるものである。

【0033】

なお、上蓋 14 には、中蓋 10 への取付け構造として、膨出部 14 a の軸方向中央部から径方向外側に立ち上がり軸方向後側に曲がって延びる構成の、中蓋 10 を覆う覆い部 14 b が膨出部 14 a 後部の外周面を取り囲むように形成される。その覆い部 14 b の内周面に中蓋 10 先端部の嵌合用雄ネジ山 10 c にネジ嵌合（螺合）するための雌ネジ山 14 c が周方向に沿って形成されると共に、覆い部 14 b の内側位置に、中蓋 10 先端部の内周面に当接する環状突起部 14 d が突出形成されている。

このように中蓋 10 の嵌合用雄ネジ山 10 c にネジ嵌合（螺合）するための雌ネジ山 14 c を上蓋 14 に形成することによって、使用者は上蓋 14 を中蓋 10 にネジ込みによって嵌合でき、ネジ込み力の加え方によって嵌合力を調整可能に緊密に嵌合することができる。したがって、不使用時等、中蓋 10 に上蓋 14 を装着した時にそれらの間に隙間が生じるのを防止できるので、本体容器 16 を倒す等しても液漏れが生じることを確実に防止

10

20

30

40

50

できる。

【0034】

上記容器用蓋体各部の構造をさらに詳しく説明する。

【0035】

図1に示すように、前記容器用蓋体において、前記中蓋10には、その液溜凹所18内の底部の一部であって、前記注出筒12の立ち上がり位置とは別位置に、中蓋10の本体容器16内部側と外部側とを連通する連通孔22を形成すると共に、この連通孔22を開閉するものであって、該連通孔22を開状態にしたときに前記液溜凹所18内に溜まった液状内容物を本体容器16内に戻すための弁体24を設けている。上蓋14の膨出部14aの中蓋10への取付け側端には、上蓋14を中蓋10に取付けて覆った状態としたときに、前記弁体24を開状態に作動させる突出部20を設けている。

10

【0036】

弁体24は弾性体26の付勢によって連通孔22に下方から開閉可能に密着されており、前記上蓋14の膨出部14aは、スクイズ時に注出筒12から吐出された液状内容物を受けて計量可能（内周面に計量目盛りが形成され、膨出部14aが透明であれば内部または外面に形成してもよい）に形成されている。また、前記上蓋14の突出部20は、前記膨出部14aの周縁が環状に突出し、上蓋14を中蓋10に取付けたときに該中蓋10の液溜凹所18内の底部にまで至り前記弁体24を押圧して開状態に作動可能に形成されている。

【0037】

20

実施形態では、注出筒12は、中蓋10底部の軸中央部から立ち上がって上方に延びて設けられており、中蓋10底部には、その注出筒12を取り囲むように注出筒12側面と中蓋10内壁面との間の位置に本体容器16内部側と外部とを連通する連通孔22が形成されている。

【0038】

弁体24は、図1、図2に示すように、円環状の板部材で構成され、中蓋10の底部下面の本体容器16内部側に前記連通孔22を密閉可能に上側に向けて弾性体26によって付勢されて設けられていると共に、弁体24には前記連通孔22を通して底部上面側に延在し前記突出部20が当接するための押圧部28が柱状に起立して形成されている。この押圧部28は、弁体24上面に等角度間隔で4個など複数箇所に配列形成されている。押圧部28は、等間隔でなくてもよく、また、奇数偶数を問わず、2列以上を配列してもよい。ただ、3以上設けた方が確実に押し下げ時に平行移動で下降するので好ましい。

30

【0039】

また、中蓋10の底部下方には、前記注出筒12内の中空通路12aに連通する筒状部12cが本体容器16内部の底部方向に突出形成されている。弁体24は前記筒状部12c基部の外周に設けた弾性体26によって、前記連通孔22を密閉可能に上側に向けて弾発されている。

【0040】

具体的には、図2に示すように、弁体24は、筒状部12c基部の外周部に該弁体24の同心円状に環状取付け部30が設けられ、弁体24及び環状取付け部30間に弾性体26が設けられて、この弾性体26の弾発力によって、前記弁体24を上方に向けて付勢するようになっている。弾性体26は、図2(a)に示すように、クランク形状に曲がった幅狭板状体であって、(b)に示すように、軸方向に沿って環状取付け部30よりも弁体24が上方に位置して、弁体24及び環状取付け部30間を繋ぐブリッジ構造を呈し、環状取付け部30、弁体24及び弾性体26は一体に樹脂成形されている。もちろん、これら環状取付け部30、弁体24及び弾性体26は、別体としてそれぞれを同材質または別材質で形成して組み合わせて構成してもよい。

40

【0041】

なお、筒状部12cは抽出筒12よりもかなり短く形成されており、その筒状部12c内側にチューブ状管路32の一端が嵌入して固定されており、このチューブ状管路の他端

50

が本体容器内の内底部近辺に至っている。本体容器 16 が側壁部 16 b 押圧変形されて内圧が高まったときに本体容器 16 内の液状内容物を抽出筒 12 に向けて送り出すものである。

【0042】

次に、上記した実施形態に係る容器用蓋体の作用を説明する。

【0043】

容器用蓋体において液状内容物の注出は、図 3 に示すように、使用者が一方の手で本体容器 16 を掴み、他方の手で上蓋 14 を摘んで中蓋 10 から取り外す。

【0044】

そして、前記膨出部 14 a の開口側端を上に向けた状態で本体容器 16 を把持する力を強くしてスクイズし、前記注出筒 12 から上蓋 14 の膨出部 14 a 内に一定量の液状内容物を注ぎ出す。その上蓋 14 の膨出部 14 a 内に注ぎ出された液状内容物を洗濯槽内に投入する等の使用に供する。

【0045】

その後、上蓋 14 を中蓋 10 に被せる際に、図 4 (a) に示すように、上蓋 14 に液状内容物が残留している場合（残留して液状内容物 34）にそれが中蓋 10 の液溜凹所 18 内に注ぎ入れられることになる。

【0046】

そして、上蓋 14 を押圧して中蓋 10 に嵌め込む。その上蓋 14 を嵌め込んで取付ける際には、図 4 (b) に示すように、前記上蓋 14 の膨出部 14 a の突出部 20 が、該中蓋 10 の液溜凹所 18 内の底部にまで至り、前記弁体 24 の押圧部 28 を押圧して弁体 24 を下方に移動させることによって連通孔 22 が開状態に作動する。これによって、残留した液状内容物 34 が連通孔 22 を通して、本体容器 16 内に流れ込み、回収される。

【0047】

なお、上蓋 14 の覆い部 14 b 内周面の雌ネジ山 14 c が中蓋 10 先端部のネジ嵌合用の雄ネジ山 10 c に螺合によって嵌り込んで、上蓋 14 が中蓋 10 から抜けないように固定される。これにより、使用者が上蓋 14 を嵌め込む力を維持しなくても（手を離しても）上蓋 14 が固定され、前記突出部 20 が弁体 24 の押圧部 28 を押圧し続けることとなるので、連通孔 22 が開状態を維持し、使用者がその後の操作をしなくても残留した液状内容物が本体容器 16 内に余すことなく流れ込み、完全に回収されることになる。

【0048】

尚、本発明の容器用蓋体は、上記した実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論である。

例えば、上記実施形態では、中蓋 10 に上蓋 14 を取付ける構造には、上記のように雄ネジ山 10 と雌ネジ山 14 c によってネジ嵌合する構造を採用する他、中蓋 10 と上蓋 14 との互いに対向する面部に嵌まり込み構造を採用することができる。すなわち、それら中蓋 10 と上蓋 14 の双方にリブ等の凸状部を形成して一方の凸状部が他方の凸状部を乗り越えて互いに緊密に嵌合するようにしたり、または、一方にリブ等の凸状部を他方に溝等の凹状部を形成して、一方の凸状部が他方の凹状部に嵌り込んで緊密に嵌合するようにしたりする等、適宜の嵌め込み構造を適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0049】

【図 1】本体容器とそれに設けた容器用蓋体の詳細断面図である。

【図 2】(a)、(b) は、弁体、弾性体、および環状取付け部の構成説明図、作動図である。

【図 3】容器用蓋体の上蓋への注出説明図である。

【図 4】(a)、(b) は容器用蓋体の上蓋を中蓋に取付ける前、取付けた後の説明図である。

【符号の説明】

【0050】

10

20

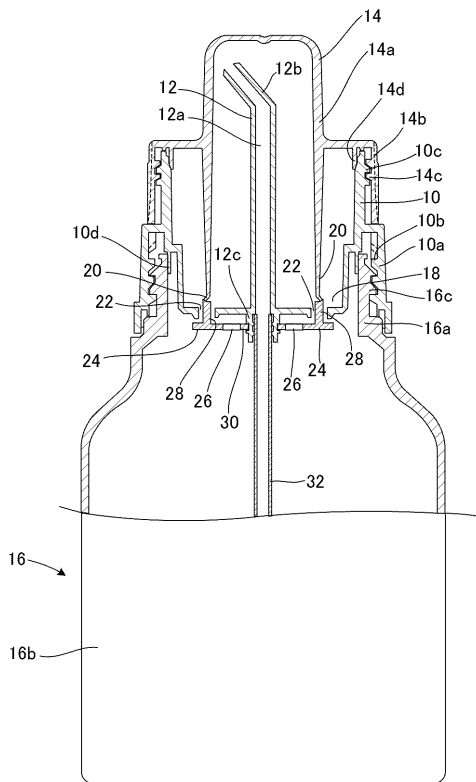
30

40

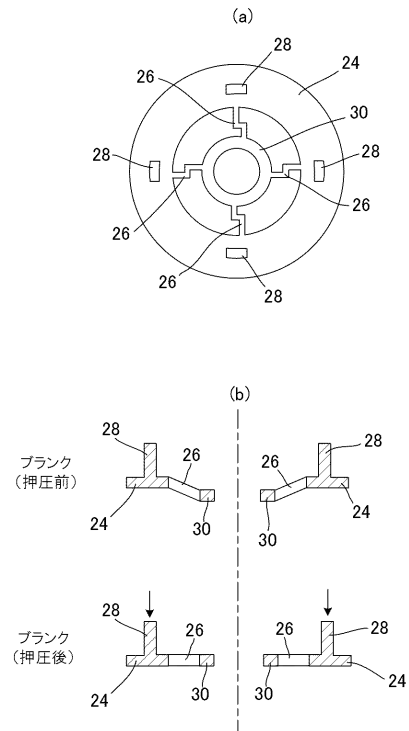
50

1 0	中蓋	
1 0 a	取付け用壁部	
1 0 b	螺合部	
1 0 c	ネジ嵌合用の雄ネジ山	
1 0 d	環状突起	
1 2	注出筒	
1 2 a	中空通路	
1 2 b	上端部	
1 2 c	筒状部	
1 4	上蓋	10
1 4 a	膨出部	
1 4 b	覆い部	
1 4 c	ネジ嵌合用の雌ネジ山	
1 4 d	環状突起部	
1 6	本体容器	
1 6 a	口元部	
1 6 b	側壁部	
1 6 c	雄ネジ山	
1 8	液溜凹所	
2 0	突出部	20
2 2	連通孔	
2 4	弁体	
2 6	弾性体	
2 8	押圧部	
3 0	環状取付け部	
3 2	チューブ状管路	
3 4	残留した液状内容物	

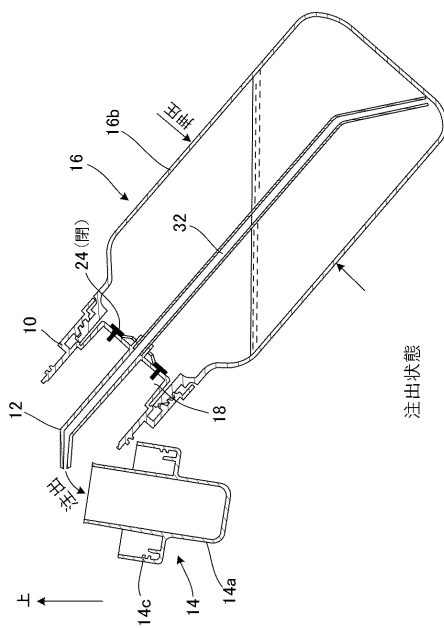
【図 1】



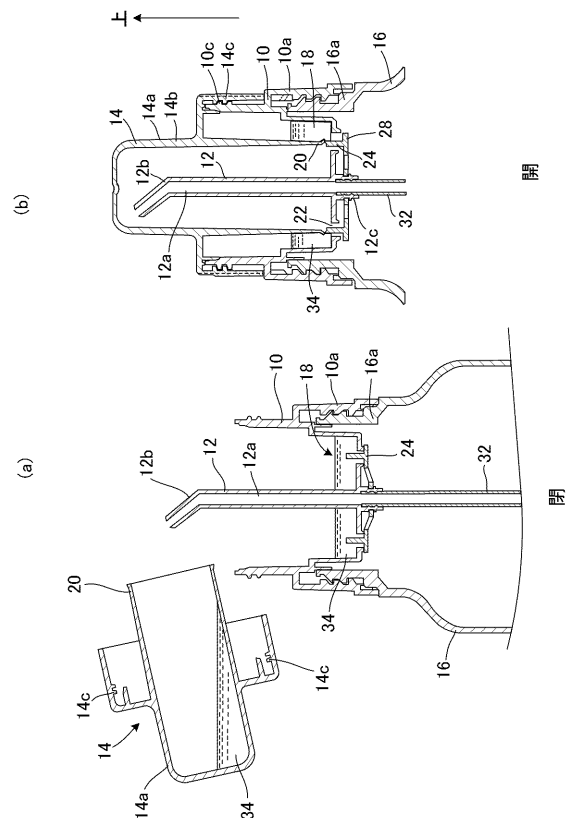
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

F ターム(参考) 3E084 AA04 AA12 AA24 AB01 AB10 BA02 CA01 CC03 DA01 DB12
DC03 FB01 GA01 GB01 JA05 KB01 LA17 LB02 LD01 LE01
LF01